

正会員 ○芝野有祐*
同 横山俊祐**
同 徳尾野徹***

たまり場 コミュニティ 老人会
高齢者 地域交流 街づくり

1. はじめに

現在の高齢者福祉制度は、老人ホームなどの福祉施設、デイサービス・グループホームなどの通所型・在宅型福祉センターを基盤としている。これから我が国の高齢化が進行していくうえで、労働者層が高齢者を介護してゆく、施設に頼った介護制度はいずれ限界を迎えるであろう。また、高齢者にとっても自身で生活を組み立て、生活力を養ってゆく力が失われてしまう。今後どんどん深刻化していく高齢化・高齢者福祉問題を解決するには、高齢者同士で協力し、助けあって生活していく社会をつくるのが重要となるのではないだろうか。

本研究では、福祉・介護制度に頼ることない、脱制度型の高齢者地域コミュニティ形成の場を取りあげ、その実態を明らかにする。そして、今後の高齢者福祉・介護問題解決への手がかりとする事を目的とする。本研究では、非制度的な高齢者の居場所を「たまり場」と呼称する。

2. 調査概要

本研究では大阪市東成区今里地区の今里西之口公園、そして寝屋川市の TM 緑地の二箇所を対象とした。これらの場において、地域コミュニティが形成されている非制度的な空間（＝たまり場）の実態や特徴、そして、存在意義などを実測調査および観察・ヒアリング調査によって明らかにする。それぞれの地域で協力を依頼し、3 件のたまり場の実測調査を行った。

3. たまり場の実態

1) 今里西之口公園のラジオ体操

老人会が主体となり、毎朝 9 時から開催している。男性の姿はなく、完全に女性のみなたまり場となっている。この体操は、戦後の昭和 37 年から続く歴史あるものである。

新規の会員は祭りなど、老人会の催しにて勧誘する。リーダーは 2 年に一度の推薦、投票によって選出される。体操の場は、リーダーが毎朝開始の 15 分前に来てボールやラジカセ、スツールを倉庫から出し、並べることになっている。終了後には倉庫の鍵をし、最後に帰宅する。体操での掛け声や、開始の合図などをリードするのはこのリーダーではない。特に役職のない人が行っている。皆で声を合わせて回数を数える場面が見られ、一体感が伺えたが、体操が終わった後は立ち話をする事もなく 2、3 分で速やかに解散する。多くの方は殆ど会話をしない。しかし、毎朝決まった時間丁度に集まり、すぐに去るということが日常となり、常連性を生んでいるのである。（表 5）

2) TM 緑地 1

囲碁・将棋を通じて町の活性化を図る団体である囲碁・将棋街づくりの会が主体となり、場をつくっている。この団体は、プロ棋士による公開対局を行ったり、子供に囲碁・将棋教室を開催している。年会費は 1000 円。将棋をするためのテーブルは自分たちで作成した。更にロッカーを自分たちで用意し、近くの畑に隠すように設置している。彼らは人通りの多い所を占拠していたため 5 年前に注意をうけ、少し外れに場所を移した。対局中は

表 1 - たまる場所と目的の関係

場所	今里西之口公園	TM 緑地 1	TM 緑地 2
	<p>ラジオ体操を仕切る人</p>	<p>比較的大きい木に囲まれたスペースに机と椅子を用意して将棋をしている。</p> <p>散歩コース</p> <p>散歩コースから将棋をしている姿がよく見える。</p>	<p>雑談</p> <p>机や椅子、将棋盤は自分達で用意している。</p> <p>将棋</p> <p>飲酒</p> <p>花壇</p> <p>散歩コース</p> <p>花壇の縁のブロックを椅子のようにして使用している。</p>
目的	ラジオ体操	将棋	将棋、飲酒
主体	老人会	囲碁・将棋の会	—
属性	女性	男性	男性
平均人数	30~40 人	30 人前後	10 人前後

非常に緊迫した空気となり、皆言葉数も少なく真剣に指している。そのため、周囲を散歩する人たちから敬遠の声もある。将棋が終わった後は、特に立ち話をする
こともなく2、3分で全員がばらばらに去っていく。(表5)

3) TM 緑地 2

一般の高齢の方が椅子とテーブルを並べたことから出来た
たまり場。前述の TM 緑地 1 のように行為を将棋のみに縛る
ことなく、雑談・飲酒・喫煙・将棋といった、多様な行為
が見られた。TM 緑地 1 の雰囲気は煩わしく思う人たちも
集まる。雑談のみという短時間の滞在も多いため、常に
人の出入りが見られる。

3. 場の特性

1) たまる人の特性

今里西之口公園では老人会の主催であるにも関わらず、
女性のみなたまり場である。また、TM 緑地 1 及び TM 緑地
2 は男性のみなたまり場となっている。

2) 場の作られ方

3 か所とも、物を設置することでたまり場をつくっている。
今里西之口公園では、リーダーが倉庫の中のラジカセ・椅子・ボールを並べる。TM 緑地 1 では、各々が椅子、
自作のテーブル、盤をロッカーから出してきて場を作る。
TM 緑地 2 においては、一人の高齢の方がそれらを持って
きて場を作る。

4. たまり場の意義

表 3 から、たまり場は常連性があるため、病気の早期
発見や、孤独死を防ぐ効果があると考えられる。これに
よって、高齢者が安心して生活できる社会の実現に貢献
する。更に、自らの自立性を保つことにも効果がある。
たまり場で過ごす時間は常に周囲の目に晒されるため、
掃除をしたり、大声を出さないといった配慮をする。

その上、施設とは異なり、緩みがちな高齢者の生活に
メリハリをつける効果がある。今里西之口公園のラジオ
体操は、毎朝決められた時間丁度に始める事で高齢者が
自ら生活を組み立て、自立する事を促す。また、TM 緑地
1 (囲碁・将棋街づくりの会) での真剣な対局は、自らを
鍛えるという向上心を煽り、生活に張りを持たせること
になっている。

5. 結論

この調査により、高齢者は高齢者福祉施設のような甘
やかされた生活のみを望んでいるのではなく、自らを律
したり、鍛えている人も多いことが明らかになった。一
般的に高齢者のコミュニティというと、和気あいあいと
した雑談の場を思い浮かべる。しかし、そういった場は 3
件中 1 件のみであった。真剣に将棋を指し、自らを鍛え
るたまり場、そして、体操をするために毎朝自らを律し
て決まった時間に集まるたまり場。いずれも人との会話

を重視したたまり場ではなく、真剣に目標に打ち込む場
である。これにより、本当に張りのある生活を送ること
ができるようになるのである。

表 2 TM 緑地でのヒアリング

<p>TM 緑地 1 (囲碁・将棋の会) 会員じゃない人も散歩の途中で見ていたり、それをきっかけに会員になる人もいます。</p> <p>TM 緑地 2 (自発) 自分で机と椅子を用意して、ここに置いていたら人が集まってきた。席が空いていたら誰でも参加していいよって感じ。 友達を連れてきて将棋しにくる人もおるな。 手作りの机と椅子が置いていたのでのぞきにきたのがきっかけ。 散歩してたら見つけた。</p>
--

表 3 たまり場の人間関係への影響

<p>人間関係への影響 3日4日来んかったら「どうしはったんやろう」ってみんなで心配するもんなあ。 休むと「何で来なかったん」って心配してくれる。 ここで初めて出会った人はたくさんいるけど、スーパーなどで挨拶をするようになった。</p>

表 4 今里西之口公園のラジオ体操

8:45		老人会のリーダーが到着。 倉庫からラジカセ・椅子・ボールを出して配置。
8:50		公園のゴミ拾いを始める。
8:55		2人目が到着。 立ち話を始める。
9:00		一斉に7名が到着。 立ち話を始める。
9:05		21名が集まる。 9:07 誰かが(リーダーではない)が掛け声 「いしましょー」ラジオ体操第一を開始。
9:10		遅れた2名を加えて23名に 軽い運動を挟んで、 今里の伝統的なおどりを踊る。
9:15		ラジオ体操第二を開始。 9:19 すべてを終了。
9:20		片付けは手分けして行う。 立ち話は殆どせず、速やかに解散。 リーダーともう一人が残る。
9:25		リーダーが倉庫の鍵を閉めて終了。

表 5 TM 緑地 1 (囲碁・将棋の会) の将棋

15:00		非常に張りつめた空気感を醸し出しながら、長考をする。1局に2時間半以上かける姿が見られた。
16:00		終盤は終わった人から静かに席を立ち、まだ対局中の番を囲む。

*大阪市立大学大学院工学研究科 前期博士課程

**大阪市立大学大学院工学研究科 教授・工博

***大阪市立大学大学院工学研究科 講師・工博

*MasterCourse, Graduate School of Engineering, Osaka City University

**Prof., Graduate School of Engineering, Osaka City University, Dr. Eng

***Lecturer, Graduate School of Engineering, Osaka City University, Lec. Eng